

1 - 2 日本海(北海道西部沿岸)の浅発地震活動(1976年7月～1986年5月)

Shallow Seismic Activity in the West Coast of Hokkaido (July, 1976 - May, 1986)

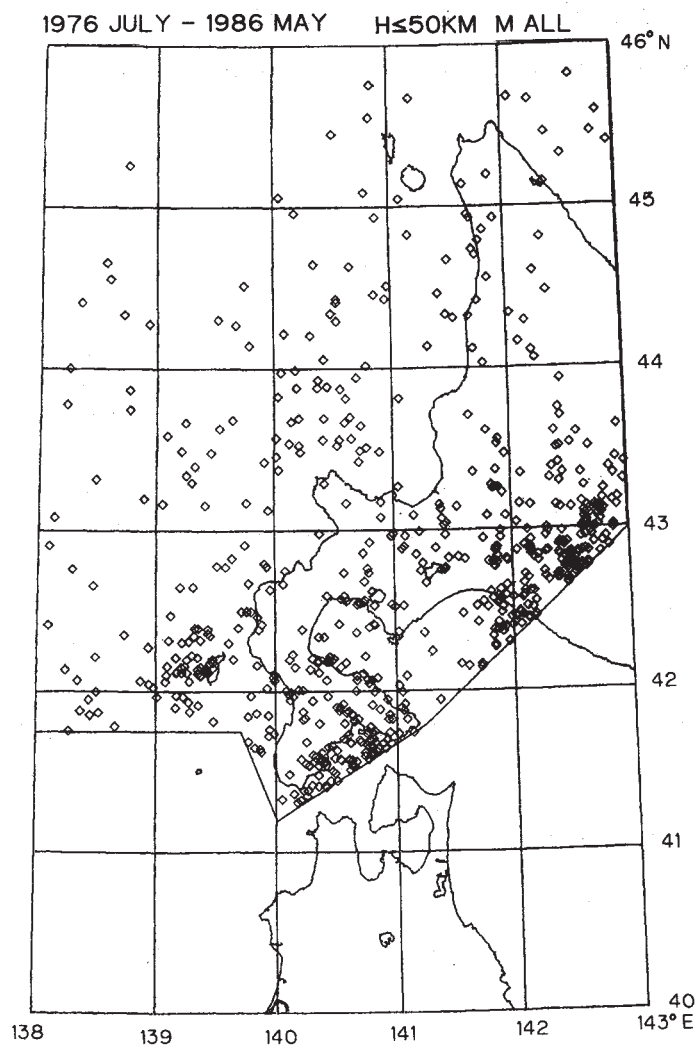
北海道大学 理学部

Faculty of Science, Hokkaido University

石狩湾地震(1834, M 6.4), 積丹沖地震(1940, M 7.5)級の地震が今後発生すれば, 人口集中の著しい札幌市とその周辺は大被害を受けることが懸念されている。また, 1983年日本海中部地震(M = 7.7)の発生を契機に日本海の地震活動が現実の問題として注目されるに至っている。

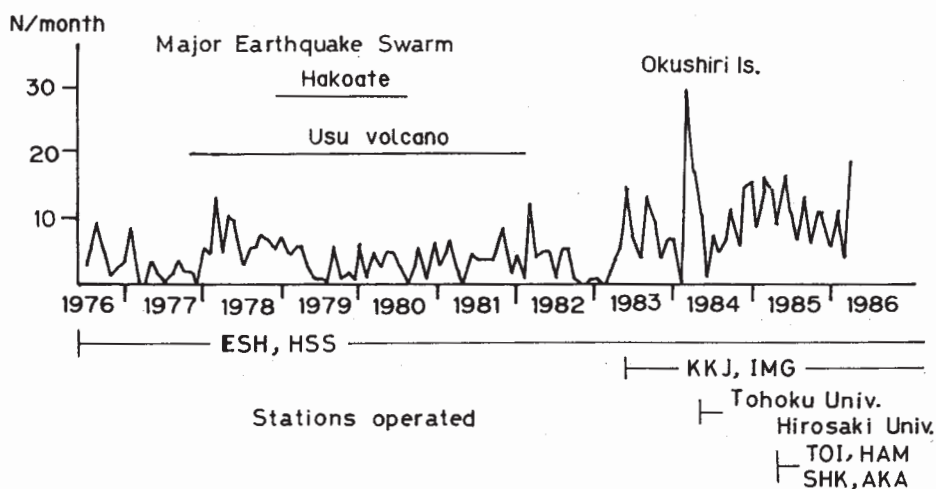
北海道大学理学部では, この領域に絶えず関心をはらって観測を続けてきた。第1図に観測開始以来現在までの震央分布を示す。これらの地震の月別観測回数を第2図に示す。日本海の地震活動の監視に直接寄与している観測点の変遷も合せて示してある。1983年5月以降にみられる観測回数の増加には観測体制の充実が反映されているはずである。しかし, 最近北海道内陸部の地震活動の活発化が認められているので, 日本海の地震活動も現実に活発化していることも考えられる。今後の観測結果に注目したい。

(本谷 義信)



第1図 北海道内陸（北西半分）および日本海（北海道西部沿岸）の浅発地震の震央分布

Fig.1 Epicenter distribution.



第2図 第1図の地震の月別回数

Fig.2 Monthly number of earthquakes shown in Fig. 1.
Note the number of stations located in the western part of Hokkaido.